

令和8年度 第2回 昭島市行財政運営審議会 議 事 要 旨

〔日 時〕 令和8年7月15日（水） 午後6時

〔場 所〕 昭島市役所 3階 庁議室

〔出席者〕

1 委員

田中啓之会長、山口敬子副会長、安保満委員、佐々木啓雄委員、高橋靖和委員、
若林とき子委員、佐々木夏子委員
欠席（佐藤之崇委員）

2 事務局

池谷企画部長、女屋行政経営担当課長、中村企画調整担当係長、高橋窓口改革推進担当係長

3 傍聴者

なし

〔配付資料〕

- ・ 第2回昭島市行財政運営審議会 日程
- ・ 参考資料1 昭島市行財政運営審議会委員名簿（R8.7.15～）
- ・ 参考資料2 （後期計画）基本施策8-②（案）
- ・ 参考資料3 （後期計画）基本施策8-③（案）
- ・ 参考資料4 （後期計画）基本施策8-①（案）
- ・ 資料1 第1回行財政運営審議会議事要旨（案）
- ・ 資料2-1 昭島市中期行財政運営計画（令和9年度～令和13年度）骨子（案）
- ・ 資料2-2 昭島市中期行財政運営計画【第1章～第4章】
- ・ 資料3-1 昭島市中期行財政運営計画 取組項目案（過去計画との比較）
- ・ 資料3-2 昭島市中期行財政運営計画 構成案（現行計画との比較）
- ・ 当日配布 昭島市行財政改革推進会議 報告書（令和6年度）

〔議事要旨〕

1 委嘱状交付

佐々木夏子委員に委嘱状が交付された。

2 議題

（1）第1回審議会議事要旨（案）について

第1回審議会議事要旨につき、全会一致で承認を得た。

（2）中期行財政運営計画 令和9～令和13年度について

事務局から資料2-1、2-2により説明。

〈質疑応答〉 ◆は委員、○は事務局の発言要旨

◆ 資料2-2について、6ページの図4の折れ線グラフは正しいが、令和4年度と6年度の目標値と実績値の表示が入れ替わっている。(佐々木啓雄委員)

○ 大変失礼した。次回以降お示しする資料では修正する。(事務局)

◆ 資料2-2の9ページ(2)「機動的な組織体制の確立と人財の確保・育成(定員管理計画)」の目標について、現行計画では人件費比率や職員給比率等の情報が載っていたが次期計画からは載せないのか。(佐々木啓雄委員)

○ 前回の計画(昭島市行財政改革推進プラン)では人件費比率等を目標として掲げていた。現行計画からは指標としておらず、過去計画の参考資料という形で掲載している。次期計画も現行計画を継承する形になるため、具体的な指標は設けない。(事務局)

◆ 資料2-2の14ページ「基本方針1 新たな時代に対応したまちづくりの推進」の説明文中、市民や市民団体などの多様な主体が連携をして地域社会の課題解決に取り組むと謳っているが、実際に何をするのか。行財政としてつながりを支えるなどもっと具体的に謳ってはいけないのか。自治会としても、市の協力に関する記載が明確にないのが気になる。(高橋委員)

○ 具体的な取組内容は次回以降の会議でお示しする。この第3章はあくまで基本的な考え方を明記したもので、現在審議している総合基本計画の後期計画(以下、「後期計画」という。)の内容を踏まえたもの。実行計画編では具体的な取組を掲載する予定である。もちろん自治会がなければ地域の連携が機能していかない。新しい昭島市地域コミュニティ活動連携推進計画や、後期計画の中でもコミュニティの推進は目玉の一つであるため、しっかりと明記した。財政面の支援等は、後期計画の方でしっかりと検討している。(事務局)

◆ 資料2-2の15ページ「基本方針2 効果的・効率的な行財政運営」の中段「最新の財政推計に基づく公共施設等総合管理計画に基づく取組を推進」とあるが、最新というのはいつ時点のものを指しているのか。年度を明記できないのか。(高橋委員)

○ 策定中の後期計画の計画期間に合わせた財政推計は、現在推計を立てている段階。ここでいう「最新」はそれに基づいた時点となる。後期計画策定には財源的な裏付けが当然必要になるが、その裏付け自体が後期計画の中の財政計画として示される。令和8年度策定時には令和7年度の決算が固まるので、ここから人口推計などを考慮した上で、令和9年度から13年度までの財政推計をお示しする。(事務局)

◆ 効果的・効率的な行財政運営の視点による評価について、次期計画は現行計画と比較して評価方法や監視の仕組みで何か新しい取組はできるだろうか。ITと情報通信技術の活用という面では、時代もかなり変化している。新しい計画の色が出てるといい。(田中会長)

○ 行財政改革推進会議において現行計画を評価・検証していただく中で、政策指標が細かすぎる、など様々ご意見をいただいた。事務局としても、KPIを設定するなど新たな評価方法を模索している。次回会議では、事務局案としてその辺もお示しできればと考えている。(事務局)

- これから説明する資料3-1と3-2も同様であるが、現在改定中の後期計画及び各種計画の議論が進んでいく中で、それらの計画にしっかりと合わせていく必要がある。今回お示しした資料には、それらの新しい要素は実はまだ反映できていない。次回会議では、後期計画等としてしっかり整合をとって修正したものを事務局の方でお示しするため、その点ご了解いただきたい。（事務局）

（3）行財政運営のための取組項目（案）について
事務局から資料3-1、3-2により説明。

〈質疑応答〉

- ◆ デジタル化について謳っている取組内容が多いが、例えば印鑑証明を取る際に環境コミュニケーションセンターに行くと、ディスプレイを通じて担当職員とやり取りをし、センターの職員が手数料や証明書交付などを代理して行っている。それがDXなのか。また、センターの職員が直接交付業務を行うわけにはいかないのか。（高橋委員）
- リモートによる証明書交付はDXとは言えない。環境コミュニケーションセンターは、以前は証明書交付等の業務のため担当職員が1名配置されていた。しかし、来所する市民が1日1～2名ほどであったため、現在はリモート対応としている。また、専門的な内容となるとセンターの職員では対応できないため、リモートで市民課の職員とやり取りをしている。（事務局）
- ◆ 一般市民からは、リモートによる証明書交付もデジタル化のように捉えられてしまう。住民票であればマイナンバーカードがあれば自動取得できる。印鑑証明も印鑑登録証カードを持っていれば、人を介在しなくても取得できそうなものだが。（高橋委員）
- 今後は、市役所の窓口に行かなくても各種手続きができるような仕組みをDXとして進めていく。一部の証明書の交付はマイナンバーカードがあればコンビニ交付サービスが利用できるが、取得できる証明書の種類を増やしていくなど、サービス向上に努めていく。（事務局）
- ◆ 資料3-2の次期計画案 基本方針1（3）の取組内容「④窓口改革の推進」の主な事業として「市民サービス向上のための窓口受付時間の短縮を検討」とあるが、「市民サービスの向上」と「窓口受付時間の短縮」が結びつかないように思える。（山口副会長）
- ご指摘のとおり、意味が逆になってしまう。窓口受付時間が短縮されることにより、市民サービスは逆に後退してしまう。それをカバーするため、DXを活用したコンビニ交付サービスの拡充などの取組を行う予定である。ここの表現は、誤解を招くため修正する。職員の働き方改革やDX推進と相まって、市役所の開庁時間は8時台から17時台が当たり前の時代ではなくなっている。福生市や立川市のように、職員の勤務時間は変わらないが受付時間そのものを短縮し、9時台から4時台へという動きが出てきており、現在昭島市でも開庁時間を検討しているところ。ただ、市民が来庁しなくても済むような、デジタルを活用した取組などはしっかりと拡充していかなければいけない。（事務局）
- ◆ 私の所属する信用金庫も、窓口負担を軽くするため、ATMにも税金を納められる機能など色々な機能を追加している。窓口でなくても納められるサービスや、ATMの使用時間の延長など、利便性に資する取組は今後も広く告知していきたい。（山口副会長）

- ◆ 基本方針1(4)の取組内容「市域の温室効果ガス排出量の削減」の主な事業として「姉妹都市などの森林整備、木材利用に由来するカーボンクレジットを紐づけたエネルギー調達のスキームの検討」とあるが、あきる野市にある市有林を港区が借り受け、二酸化炭素吸収量をJクレジットとして売却しているという話を聞いた。昭島市での具体的な取組は。(山口副会長)

○ 主な事業として資料上はお示ししたが、現時点では具体的な取組として出せる段階にはないため、計画に掲載するかは検討する。また、Jクレジットというのは他のエリアの排出削減量などをお金で買うような仕組みだが、脱炭素の取組はまず自分たちの市域でしっかりと努力をしたうえで、最終手段としてJクレジットのような仕組みの導入を考えるべき。昭島市は、森林が豊富な奥多摩町や友好都市協定の締結先である岩手県岩泉町と連携している。岩泉町は、海草や海藻が吸収するブルーカーボンとして、海洋の中で二酸化炭素吸収量を増やす取組を計画している。二酸化炭素吸収量を増やしていく取組があれば、昭島市も連携・協力をしていく。(事務局)

- ◆ 現在の総合基本計画のまちづくりの目標に「多様性と意外性のある楽しいまちを目指して」というキャッチフレーズがあるが、「多様性」はよく聞くフレーズだが「意外性」というのは珍しい。いいキャッチフレーズだと思っていて、抽象的ではあるが、行財政運営の観点から意外性に関連付けられるものはないだろうか。(田中会長)

○ この表現は、堺屋太一氏が昭島市まちづくり企業サミットで基調講演をいただいた際におっしゃっていた言葉。かつて日本は強い国を目指していた、その次に豊かな国、これからは楽しい国を作らなくてはならないと。それに必要なものは、自治体にとって何かというと「多様性」や「意外性」であると。行財政運営の観点で直接結びつくものがあるかというとながしいが、魅力発信や人を呼び込むという観点は総合戦略の方につながっていくと考える。(事務局)

- ◆ 「意外性」はとてもいいフレーズ。昭島らしさを出せるよう、事業再生の観点から、ある意味斬新なことも手掛けていくことが魅力づくりにもつながるのかもしれない。(田中会長)

3 その他

次回審議会の日程を以下のとおり説明し閉会とした。

- ・第3回行財政運営審議会…令和8年9月7日(月)午後6時～庁議室